
「膀胱全摘除術＋腸管利用尿路変向術後の急性腎盂腎炎の臨床的検討」

についてのご説明

1. はじめに

筋層に浸潤した膀胱がんの標準治療は膀胱全摘除術であります。多くは腸管（回腸）を利用して尿路の再建やストーマ（お腹に尿の出口としての腸管が出ている状態）が作られます。術後の合併症の一つが急性腎盂腎炎という感染症があります。尿管と腸管の吻合が行われるため、通常の急性腎盂腎炎とは特徴が異なってきます。このような患者さんの経過を調べることによって、適切な治療を検討していきたいと考えております。

2. 研究対象

2010年1月1日から2015年12月31日までに膀胱がんに対して当院で膀胱全摘除術＋腸管利用尿路変向術を施行した患者さんの中で、当院で2016年10月30日までに急性腎盂腎炎と診断し治療を行った患者さんを対象とします。予定登録数は27症例です。

3. 研究内容

対象となる患者さんのこれまでの診療記録（カルテ）や保存した菌から、経過や特徴についての情報を調べます。なお、この研究をおこなうことで患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

4. 患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩^{ろうえい}を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化など厳格な対策を取っています。本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文など）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5. 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2010年1月1日から2015年12月31日までに膀胱がんに対して当院で膀胱全摘除術＋腸管利用尿路変向術を施行した患者さんの中で、当院で2016年10月30日までに急性腎盂腎炎と診断し治療を行った患者さんにおいて、この研究に診療データを提供した

くない方は、2021年12月31日までに下記まで御連絡下さい。それ以降ですと、御連絡をいただいた時点ですでに研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合があります、解析結果からあなたに関するデータを取り除くことはできず、研究参加を取りやめることができなくなります。

6. 研究期間

病院長承認日から2022年12月31日まで

7. 利用する情報

カルテ情報：採血および細菌学的検査結果、年齢・性別、ほかの病気の有無などの背景、抗菌薬の投与方法、起因菌の種類、治療の経過

8. 研究責任者：札幌医科大学附属病院 泌尿器科 教授 舩森 直哉

研究分担者： 同上 診療医 桧山 佳樹

9. 医学上の貢献

膀胱全摘除術＋腸管利用尿路変向術後の急性腎盂腎炎を調べたものは限定されおり、これらについてはデータが不足しており、どのような治療方法が適切であるか、分かっていないことがあります。そこで本研究では、該当する患者さんのデータを収集することで、今後の診療に役立てたいと考えております。

10. 問い合わせ先

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 泌尿器科

研究分担者 桧山 佳樹

【平日】 泌尿器科教室

電話：011-611-2111 内線 34720（平日：8時45分～17時00分）

【休日・時間外】西8階病棟

電話：011-611-6111 内線 39260（休日・時間外（17時00分～8時45分））